

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドサポートなは(放デイ)				公表日	2026年 1月 30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	近隣の公園等も利用して活動に分けている	活動内容が固定化されないように工夫を取り入れていく。視覚的配慮の為複数ある支援室を状況によって分けている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		同法人に応援に来てもらい対応している	職員が長く働けるように会社を働きやすい環境にしていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	5	児童が過ごしやすいように台を作り高さをカバーしている	児童ひとりひとりに合わせた設備を整えていく。事業所スタッフが必要なものを感知できるように声かけて行く。安全の為に前面開く窓を必要最低限開くように工夫している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎週ごまかい部分の掃除を組み入れている。	掲示物が多くある為整理整頓をする。片付いた状態を継続していく。環境委員会を設置し、常に危険箇所、環境整備を行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個別に対応できる部屋が2つある。必要時は個別対応で使用している	引き続き環境整備に努めます
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	専門職によるアセスメントをもとにみんなで目標設定、支援を行っている	MTGの中で活動と児童の様子を共有していく。児童について話す日を固定で決める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		頂いた意見にはスタッフ同士で改善案を話し合っている	アンケート結果をもとに事業所の改善点として掲げ、柔軟に対応していく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		月二回責任者との面談と毎日のMTGで職員の意見やアイデアをだしてもらう。	面談から改善へと繋げている。対面以外でも意見が出せる様に工夫が必要
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4	評価内容を確認、共有し、改善に向けて話しあっている。第三者の方に研修を行ってもらいながら、会社全体の評価を頂き、改善を行っている。	改善対策を施行し、再度評価を実施することで質も高めていく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		学びたいことをあげて外部講師に研修を依頼している。リタリコやオンライン研修を多く取り入れている。	参加率が少ない。面談の際に研修の必要性を伝え、目的を持って参加してもらうようにする
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	共有し、公表したホームページも確認してもらっている。毎年職員みんなで話し合って支援プログラムを作成と公表をする。	公表しているが見直し出来る機会も作っていく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		標準化されたアセスメントをもとに評価、目標設定、支援を行っている	アセスメントが取れるスタッフに偏りがある為、統一してアセスメントが取れるようにツールを活用していく
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		モニタリングを事業所で開催し、職員全員で評価、支援の振り返りを行っている。	十分な時間を確保したうえで聞き取りを行っていく
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	モニタリングを事業所で開催し、職員全員に周知、検討を実施。	計画に沿った支援をスタッフに意識してもらうために活動前には計画も確認していく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	4	常に児童の様子等をMTGで共有と話し合いをしている。改善中。	アセスメントツールの不使用だったため、統一したアセスメントがとれるように使用していく
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2	会社全体で家族支援には特に力を入れており、家族支援について考える機会が多くある。家族で参加出来る行事の開催、保護者交流会、地域イベントに参加することで普段関わりがない大人や子どもとの交流等行っている。	それぞれの支援に対する理解を深めていく必要がある。社内勉強会のテーマにし、学んでいく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動について振り返りを行い、振り返りをもとに次月のプログラムへと反映している。	支援プログラムの内容について学びながら、プログラム作成を行っていきたい

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		継続が必要な活動に関しては新しいものを取り入れながら固定化しないように工夫している。	土曜日の活動内容に偏りがある時もある。地域イベントの参加や課外活動も取り入れている
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		一日のスケジュールに個別活動と集団活動の時間を設けている。	活動前には集団、個別それぞれどのように関わっていくか具体的に決めていく必要がある
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日のMTGで活動リーダーがメインとなって活動や関わり方について話し合っている。	会議や送迎の時間に追われて支援のことまで話せない事もあるため必ず話し合う事として時間をとっていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3	支援、支援終了後に情報共有(活動の様子、保護者からの共有事項)し、翌日の朝礼で再度共有している。	共有するだけでなく、必要なことはノートを活用し文字で残していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		その日または翌日で記録がとれるように徹底している。翌日には記録漏れがないかの確認もしている。	その日で記録がとれないことがあるため工夫して時間を確保していく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	支援について話し合いする日を固定化している。今後は計画と評価表をもとに話し合いをしていく。	児童によって頻度が変わるため、全員が定期的に行えるように管理していく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		一日の流れに自立支援、日常生活の充実のための活動は必ず取り入れて行っている。それに併せて創作活動、地域交流の機会を取り入れている	地域交流、余暇の提供は定期的に行えているが頻度を増やしていけるようにする
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	1	言語でのコミュニケーションがとりにくい場合には、絵や写真などで自己選択できるように工夫している。子ども同士で話し合い、活動の決定まで出来る機会を設けている。	必要なタイミングでの手段とでしか出来ない為、自己決定できる場面を増やしていく。相談し、考える機会を作る
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		状況をよく理解したか職員から現状の様子、今後の計画を聞き取り、会議に参加している。今後は児発管と現場に入っている職員も参加を検討している。	児発管が参加しているが、現場スタッフも一緒に参加できるように調整していきたい
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		相談員から関係機関を繋いでもらっている	継続して連携できるように情報共有をみつにおこなっていく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		お迎え時に確認できている。学校からの連絡事項を事業所でも確認している。下校時刻変更がある際は事前に聞いたり、保護者からお知らせしてくれる	保護者、学校との会話を大切に、確認事項だけでなく、学校のことにも興味をもって積極的に情報を集めていく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	就学時には担当者会議の開催を依頼している	お互いが自分たちで動き、うまく連携出来ない。事業所からも積極的に声かけ、必要性を伝えていく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1	他事業所に移行する際は担当者会議を開催し、情報共有を行っている。	お互いが自分たちで動き、うまく連携出来ない。事業所からも積極的に声かけ、必要性を伝えていく
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	事業所に見学してもらい取り組みや環境をみてもらい、センターでの様子も聞き取った。こちらからも積極的にかかわっていく。	見学にきてもらう等していたが、頻度減っているため定期的にに来てもらえるように伝えていく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	児童館へ遊びにいったり、地域の公園に行った際に子ども同士の交流が多く見られる。	定期的に参加や児童館へはいけていない為機会をふやしていく
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	参加出来ないため、今後は参加にむけて動いて行く	協議会へ参加し、多角的にこどもたちの育ちの環境を整えていく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎の時間に児童の様子を共有し合っている。今後は保護者面談を取り入れ、こどもについての共有理解を深めていく。	送迎時の短い時間だけではなく交流会や面談日を設けて、より話せる時間を確保していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		外部講師によるペアトレを定期的で開催している。スケジュールを合わせやすくするために年間でスケジュールを提示している。	参加率が少ない。なるべく多くのご家族に参加してもらえるように年間行事にて予定を伝え、目的や児童それぞれの必要性を説明することで参加を増やしていく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学や、契約書、説明書類を確認しながら説明している	引き続き説明書類や見学をしながら説明していく
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		モニタリングの際に家族の意向を確認し、反映している	子どもの意思をさらに反映できるように、日々の支援での様子や表情からも児童の想いを考えるようにしていく

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		作成した計画の説明を行い、内容を確認して頂き同意を得ている	引き続き、丁寧な説明を行ったうえで同意を得られるようにします
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		利用している児童だけでなくご兄弟、ご家族についての会話から助言等に繋げている	必要、希望に応じて行っていただくため、随時対応が可能なことを、伝えていく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		うらそえの事業所と合同でクリスマス会を開催した。保護者交流会も開催したが、次年度は開催頻度を増やしていく。	保護者、兄弟同士で楽しめるレクの開催頻度をふやしていく。年間行事を作成することで、より沢山の交流会に参加してもらえるようにしていく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		申し入れがあった際はその日に対応できるようにしている	うまく活用されていないので気軽に相談に来てもらえるように定期的に案内、声掛けをしていく
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		インスタ、ブログを用いて発信を行っている。活動スケジュール連絡ツールを用いてやりとりをし、必要に応じて電話や対面で話をしている。	不定期な更新となっているため、定期的に情報発信が出来るようにしていく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		入職前に説明書類をみながら説明している。保護者に定期的にサインをもらう書類は渡す際に一緒に確認しながら配布している。	誓約書にて誓ってもらっているが慣れると個人の判断が出てくるため個人情報の取り扱いには定期的に説明をしていく必要がある
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		保護者と意思疎通や情報伝達の方法について共有し、1人ひとりに合ったコミュニケーションを図った(手話、絵カード、タイマー使用での切り替え等)	今後もそれぞれに合ったコミュニケーション方法に配慮をしていく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	地域の方と一緒にハロウィンイベントを行った。地域で活躍している方のイベントを事業所で行った。	まずは地域イベントに参加することで地域との交流を増やしていく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各訓練を職員で持ち回りで実施していく。実施の際は家族にも事前に流れの共有をし、終わった後は振り返りまで伝えていく。	マニュアル作成と訓練を実施しているが周知が出来ていない事もあった。ブログを用いて発信していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		計画策定と定期的な訓練は行っている。具体的な訓練を行えるように計画立案し、状況の予測や動きまでしていく。	実施しているが周知が出来ていない事もあった。ブログも用いて発信していく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時のチェックシートで確認を必ず行っている	引き続き確認もれがないようにチェックシートを用いて確認をしていく
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		必要に応じて対応していく。基本はご家庭から持参する弁当、お菓子を摂取している	必要に応じて対応していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を基に消防設備点検・感染症自主点検・環境整備等、安全管理に必要な点検と訓練を行いました。また、送迎所に降り忘れ防止装置を設置し、職員、児童と訓練を行った	年間行事にも日程を組み込み繰り返し訓練を行う事でマニュアルや対策をより良くしていく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	計画について説明する機会を設けた	必要時には連携できるよう保護者会等で詳しく説明をしていく。参加出来ない人もいるので送迎時間等を利用していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事業所内にて発生時は対策を話し合い、一か月取り組んでみる振り返りまでしている	MTGの中で振り返りの時間を設けていくことで意識づけを継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年二回研修を開催 事業所内研修でも虐待の芽について話し合い、児童の権利について学ぶ	日頃からスタッフ同士の声かけや関わり方を客観視し、良くするための話し合いは継続していく
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		年2回研修で理解を深めている	やむを得ない時の例で説明をし、身体拘束があった際はその日に報告をしている。 必要に応じて書面でのサインをもらう	